

四街道市青少年育成センターだより

令和8年3月11日 第307号
四街道市青少年育成センター発行
四街道市鹿渡2001-11
電話 043-421-7867
FAX 043-421-7871
E-mail yseishonen@city.yotsukaido.chiba.jp

一期一会

「日々、子どもたちとの関わりの中で感じること」

四街道市教育委員会 青少年育成センター
指導主事 霜下 嵩之

「子どもには、転ばない方法を教えるよりも、転んだ後にどのように立ち上がればよいかを一緒に考えるほうが大切だよ。」親から言われた言葉で、今でも心に残っているものはいくつもあります。この言葉は、子どもたちと接する中で何度も思い出す言葉の一つです。今年度、青少年育成センターに着任し、様々な子どもたちと関わる中で、この言葉は私の軸として支えになっています。

青少年育成センターは、子どもや保護者からの相談を受けたり、見守り活動や声かけを行ったりしながら、地域の中で子どもたちの成長を支えていく役割を担っています。今年度は市内の多くの小中学生と関わる機会をいただき、一つ一つの出会いに感謝するとともに、学びの連続でした。小中学生と接する中で、喜びや楽しさを感じる一方、「もっと良い関わり方があったのではないか」「この子がより生き生きと過ごすために何ができるだろうか」と悩み、考えることも少なくありません。正解が一つではないからこそ、自問する日々が続いています。

活動を通して感じるのは、小中学生は日常の中で様々な挑戦をしているということです。「今日はこれをやってみよう」「あの友達に話しかけてみよう」といった目には見えなくても、小さな歩の積み重ねです。挨拶一つをとっても、自然にできる子もいれば、大きな勇気を出して初めてできる子もいます。そうした挑戦の中で、うまくいくこともあれば、思うようにいかないこともあります。その繰り返しこそが、子どもたちの成長につながっているのだと感じます。

私が小中学生との関わりの中で大切にしているのは、「一緒になって考えること」です。何かにつまずいたとき、すぐに答えを示すのではなく、共に考える時間を持つよう心がけています。遠回りに見えることがあっても、自分で考え行動した経験は自信となり、次の挑戦へとつながります。うまくいかなかった経験も振り返ることで次への力になります。失敗は避けるものではなく、前に進むための大切な学びなのだと思います。

ただ、そうした関わりが大切だと分かっているにもかかわらず、「本当に大丈夫だろうか」「やめたほうがいいのか」と、思わず子どもの挑戦を止めたくなる場面もあります。心配だからこそ口を出したくなることもありますが、そこでぐっと気持ちをこらえ、見守る姿勢を持つことも大人の大切な役割なのだと感じています。私自身も、子どもたちの可能性を信じ、そっと背中を押せる存在でありたいと思っています。

様々な子どもたちと関わる中で、私自身が学ばせてもらうことは尽きません。だからこそ、答えを与える存在である前に、共に考え共に歩む存在でありたいと考えています。これからも四街道市の子どもたちと向き合い、その成長を信じて寄り添い続けていきます。

当センターでは子どもと保護者の悩み相談を受け付けています

四街道市青少年育成センター (月)～(金) 9:00～16:30

相談専用電話 043-423-0066 フリーダイヤル 0120-423-0066

青少年育成センターへは市役所第二庁舎からも裏側通用口を利用して入ることもできます

『ゲーム依存とは？』～春休みに入る前に子どもと保護者が一緒に環境づくり～

今や、子どもの遊びの中心になっているゲーム。何時間もゲームに集中している姿を見て、「ゲームばかりしちゃダメ！」と頭ごなしに怒ったり、ゲーム機を取り上げたりした経験をお持ちの保護者の方も多いかもしれません。2023年12月ベネッセ保護者向けアンケート結果から、子どもの様子を見て「ゲームのしすぎかも？」と回答した保護者は、全体の67%に上ります。また子どもたちが1日のゲームに費やす時間としては、30分から2時間未満の回答が全体の52%で一番多く、2時間以上と答えた割合も14%見られます。

春休みを迎えるにあたり、子どもたちは家にいる時間が長くなり、時間の使い方に余裕が出る中、生活のリズムが乱れがちになります。この時期に子どもと保護者がインターネットやゲームに関して、よく話し合いながらルールづくりを含めた良き環境を整えていくことが大切です。

ゲーム依存とは、ゲームへの使用をコントロールできなくなり、学業・仕事・人間関係・睡眠など日常生活に支障をきたす状態を指し、世界保健機関が国際疾病分類に含めています。その主な特徴は、以下の通りです。

- ・ **コントロールの困難**：ゲームの頻度、強度、時間を自分でコントロールできない。
- ・ **優先順位の逆転**：他の重要な活動（食事、睡眠、学業、仕事、対人関係）よりもゲームを優先する。
- ・ **継続・悪化**：問題が起きていると認識しても、ゲームを続けたり、さらにエスカレートさせたりする。
- ・ **離脱症状**：ゲームができないとイライラする、不安になる、悲しくなる。
- ・ **日常生活への影響**：不登校、学業不振、職場での問題、家族との衝突、睡眠不足などを起こす。

このような状況により子どもたちが、ゲームの時間をコントロールできず朝起きられないことに始まり、学校に遅刻する、学校を休む、生活が昼夜逆転する、自分の部屋に引きこもるなどの状態になってきたら要注意と言えるでしょう。

★保護者としてできること

○ゲームとうまく付き合える環境を整え、楽しい時間を過ごせるように工夫する。

子どもからゲーム機を取り上げたとしても逆効果です。子どもの思いや考えを理解するためにも日頃からコミュニケーションを取り、子どもの話を聴くことが大切です。もしかしたら保護者の知らない所で抱えている悩みやストレスをゲームで発散しているのかもしれない。

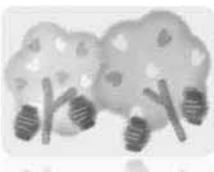
○時間などゲームをする際のルールを話し合って決める。

ルールは保護者が押し付けるのではなく、子どもと一緒に考え、話し合って決めることが大切です。そして一度決めたルールは、途中であやふやにせず、守ることが大切です。

○ゲーム以外の楽しみを一緒に見つける。

子どもたちは、ゲームをしている時間が一番好きと思っているのかもしれない。しかし他に楽しいことが見つければゲームの時間は自ずと減っていきます。運動や趣味など家族との関わりを増やすことも大切です。

『別れと出会い』



卒業する児童、生徒、その保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。今、皆さんは、新しい環境への夢や希望でいっぱいのことと思います。そしてそれと同じぐらいの不安な気持ちもあるのかもしれない。今後は、一人一人進む道は違いますが、前向きに努力する気持ちを大切に、目標をもって人生を切り拓いてほしいと思います。今後の皆さんの健康と活躍をお祈りいたします。

青少年育成センター 所員一同

3月には、仲の良かった友達やお世話になった先生方との別れがあります。そして4月には新たな出会いを迎えます。人生は別れと出会いの繰り返し、その時その時の出会い【一期一会】を大切にしていきたいですね。

またこの時期は特に人は悩み、気持ちの上でも大きく揺れ動き、不安定になる時期です。青少年育成センターでは、専門的な知見から幅広く相談を受ける指導員（SSW）らが継続的に相談活動を行っています。昨年4月から今年2月までの相談件数は、延べ649件になります。主な相談内容は、不登校、家族関係、学業・進路など多岐に亘っています。一人で思い悩むことなく、是非早い段階で青少年育成センターへご相談ください。

○2月の相談活動 [50件]

電話	17	来所	30	訪問等	3
----	----	----	----	-----	---

○2月の不審者情報

2月の不審者情報はありません。年度末、年度初めの見守り活動もよろしくお願いいたします。

○4月の街頭補導予定（11回）

6日(月) C	8日(水) B	10日(金) A	13日(月) D	16日(木) C	17日(金) E	21日(火) D
22日(水) B	27日(月) D	28日(火) E	30日(木) F			

A 7:30-8:30

B 10:00-11:00

C 14:30-15:30

D 16:30-17:30

E 17:30-18:30